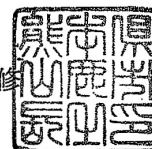


(5) 廃置分合（合併）申請、県知事決定及び総務大臣告示

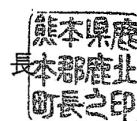
山企B4— 52号  
 鹿北発第2900号  
 菊鹿総第795号  
 鹿本総発第507号  
 鹿央総第3118号  
 平成16年7月26日

熊本県知事 潮谷 義子 様

山鹿市長 河村 修



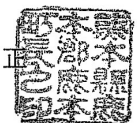
鹿北町長 西牟田



菊鹿町長 栗原 辰也



鹿本町長 中嶋 憲正



鹿央町長 杉焼 義文



山鹿市、鹿本郡鹿北町、同郡菊鹿町、同郡鹿本町及び同郡鹿央町の廃置分合  
 について（申請）

地方自治法（昭和22年法律第67号）第7条第1項の規定により、平成17年1月15  
 日から山鹿市、鹿本郡鹿北町、同郡菊鹿町、同郡鹿本町及び同郡鹿央町を廃し、その区域を  
 もって「山鹿市」を設置することとしたいので、関係書類を添えて申請します。

関係書類

- 第1 合併（廃置分合）の期日
- 第2 合併の方式
- 第3 新市名及び名称選定の理由
- 第4 新市の事務所の位置及び選定の理由
- 第5 合併（廃置分合）を必要とした理由
- 第6 合併に至る経緯の概要
- 第7 合併協定書
- 第8 新市建設計画
- 第9 関係市町議会の議決書及び会議録（抜粋部分）の写し
- 第10 協議書の写し
- 第11 現況表（市の要件に関する調書を含む）
- 第12 その他参考資料



## 決 定 書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第7条第1項の規定により、平成17年1月15日から山鹿市、鹿本郡鹿北町、同郡菊鹿町、同郡鹿本町及び同郡鹿央町を廃し、その区域をもって山鹿市を置くこととする。

平成16年9月30日

熊本県知事 潮 谷 義 子



この写しは、原本と相違ないことを証明します。

平成16年10月5日

熊本県知事 潮 谷 義 子



### 総務省告示第八百四十七号

#### 市町の廃置分合

地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第七条第一項の規定により、山鹿市、鹿本郡鹿北町、同郡菊鹿町、同郡鹿本町及び同郡鹿央町を廃し、その区域をもって山鹿市を設置する旨、熊本県知事から届出があったので、同条第六項の規定に基づき、告示する。

右の処分は、平成十七年一月十五日からその効力を生ずるものとする。

平成十六年十一月五日

総務大臣 麻生 太郎



(6) 合併準備スケジュール

	16年			17年						
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
協議関係	補正予算 (協議会)	協議会報告等(事務案件は11月まで)				●合併1/15 ●開庁式				
議会関係	補正予算 (各市町)	補正予算 (各市町の事情によるもの。必要に応じ、適宜)	11月臨時議会 (一部事務組合等 廃止等の議決)	12月定例会 (合併協議会廃止等 の議決)		●一部事務 組合の新規 約更新等	臨時 議会	3月 議会		6月 議会
対外手続き										
住民広報	補正予算 (各市町)		垂れ幕設置	広報誌での窓口案内等		HP広報開始				
組織体制		組織確定		合併前研修(職員)						
特別職 各種委員会	特別職報酬申請検討	特別職報酬決定 合併後委員等入選(合同委員会等) 合併前要調整事項の事前調整(合同委員会等)		合併前説明会(各必要に応じ)		●併合交付(一 般職・一部特別職) ●暫定委員会開催 ●職域審議会等活動開始				
例規 事務事業調整		例規一次原案完了(～11/10) 事務事業調整/完了(～11/25)								
電算	仮移動 (戸籍・財務)	職員研修		直前 リハ・サール		●本稼働				
庁舎			プレハブ庁舎 完成		引越し					
総合計画		基礎的検討(企画部会)			施策構成・重点事業案の立案		政策編成方針 (17本予算)	主要事業調整 (17本予算)	策定委設置	本格検討
各種計画 (過疎計画)		基礎的検討(企画部会)			施策構成・重点事業案の立案			計画案作成		議事 開始 協議
06暫定		要求・ヒアリング(各市町で実施)						議会報告		議会 提出
H16本		要求・ヒアリング(各市町で実施)						調整・査定		
H17暫定		要求書作成(部会・分科会)	11/30要求書 提出(各市町)					調整・査定		
H17本		要求書作成(部会・分科会)	11/30要求書 提出(部会)					調整・査定		
決算		職員 説明会	要求内容検討(部会・分科会)					調整		議会 提出
引継			引継準備・実施(職員用)	引継書作成(特別職用、法に基づく引継)				1/14決 算日	13/20要求 書提出	出納閉 鎖(新市)
その他			新体制移行							

## (7) 閉市町式

### ①山鹿市閉市式



1月15日の市町村合併を目前に、12月25日、閉市式典が市民会館で開かれました。国会議員や県議会議員、歴代市長・議長など約400人が参加。

式典では、河村修市長が「昭和29年に誕生した山鹿市は、県内屈指の温泉と緑豊かな自然に恵まれた田園観光都市として、また、県北の産業・文化、交通の拠点として、

伝統を受け継ぎながら着実な歩みを続けてきました。いよいよ、1月15日には、世紀の大事業ともいうべき、1市4町の合併が実現し、より大きな新市へと発展することになります。いままで皆様とともに『たゆまぬ努力』により県内に誇れる都市として発展してきた山鹿市の歴史や伝統を生かし、新山鹿市になっても、市民の皆様の希望を実現するために、心を一つに会わせてまい進していこうではありませんか」と式辞を述べました。

その後、山鹿中学校合唱部による「山鹿のうた」「よへほ節」「アベマリア」の3曲が披露されました。「山鹿のうた」では、ステージに山鹿の四季や郷土芸能を収録したビデオが上映され、参加者たちは歌声と映像の演出に感慨深そうな表情を浮かべていました。

最後に、山鹿中学校合唱部の原文子さんと鶴田幸也さんが市旗を降納。河村市長に返還をして式典が終了しました。

### ②鹿北町閉町式

1月15日の合併を目前にした、昨年12月26日に、鹿北町閉町式典が鹿北町体育センターであり、功労者表彰受賞者や役場職員など、約300人が出席しました。最初に国旗掲揚があり、最後の町旗が掲げられました。

式では、西牟田長鹿北町長が50年間で振り返って町への想いを紹介し、「人づく





りが大切。鹿北町の未来を背負う元気な子どもたちが育つ地域であってほしい」と式辞を述べました。その後、区長、歴代消防団長、交通指導隊、歴代商工会長、社会体育員など、分野ごとに鹿北町の発展に力を注いだ人たち202人に、西牟田町長が、表彰状と記念品を贈りました。

鹿北町の最後の式典とあり、多くの来賓も詰め掛けました。「新しい時代の幕開け」、「合併という英断が良かったといえる町づくりを」などと、たくさんの激励がありました。

そして、「未来に向かって」という題で、子どもたちが登場しました。岩野保育所の子どもたちは、幸の国かほく子ども太鼓を披露。子どもたちが力いっぱいたく元気な姿に、会場からは大きな拍手が送られました。そして、子どもたちは、1市4町がみんなで仲良くがんばろうと願い「みんな友達」という歌を手話付きで歌ってくれました。

最後は、幸の国かほく子どもガイドが、「幸の国かほくは、ますます元気です」というタイトルで、鹿北町の紹介と子どもたちから見た未来の鹿北町への願いを書いた作文を発表しました。「幸の国かほくに幸あれ、私は、今からも鹿北町に住みたいと思います」キラキラした目で、かわいらしくまた、たくましく発表する子どもたちに、大人たちはうなずいたり、笑ったりしながら聞きっていました。

最後は、来場者全員が見守る中、鹿北中学校生徒会長の信國佳寿真くんと中野ゆいさんが町旗を降納。西牟田町長に、町旗を返還して、式典が終了しました。

### ③菊鹿町閉町式



市町村合併に伴う菊鹿町閉町記念式典が12月19日、グリーンパルスで県知事代理の金子達郎県鹿本地域振興局長をはじめ古閑三博県議会議員など多数の来賓を迎え、約500人参列のもと盛大に開催されました。

式典では、栗原辰也菊鹿町長が「合併という現実を真正面から受け止め、元気あふれる新しい地域を創るため、住民の皆様と行政が一体となって、夢と希望をもって邁進いたしましょう」と式辞を述べました。名誉町民の故松野鶴平元参議院議員（上本分）、松野頼三元衆議院議員（上本分）、オリンピック選手故青木行義氏（川西）、金メダリスト西口まゆみ氏（旧姓青木 川西）の4人に称号贈呈を行い、特別功労者、自治行政功労者など128人の表彰も行いました。

また町内の児童生徒を代表して飯川美沙季さん（内田小5年）、飯川麻結さん（六郷小5年）、坂本佳子さん（城北小5年）、瀧上紘詩君（菊鹿中1年）の4人が、閉町の哀感漂う作文を朗読し参列者の涙を誘いました。

記念講演は、松野氏が「思い出我が町」と題して約1時間公演。黄土色のオーバーコートを着て登場し、まず、親子二代揃って名誉町民称号を受賞した喜びのあいさつをしました。コートは閉町式に着ていこうと、長年、ダンスにしまっていたのを自分のものと思いクリーニングに出したところ、店主から「鶴平さんのものでしたよ」と言われて驚いたということで「奇跡を感じるね。まるで晴れの式に俺も連れていけよと、出てきたようで」と感無量の様子でした。祖父の代から政治家として菊鹿町に深く関わってきた数々の思い出を交えて話し、「私たちは郷土に抱かれて育ったので、郷土には愛着があります。新「山鹿市」では子どもたちの英才教育を行い、良い人材を育てることこそが重要です」と力説しました。参加者は豊かな人生経験に基づいた松野氏の話に引き込まれ、会場からは盛大な拍手が送られました。

菊鹿中の生徒代表の手で町旗が降納され、3年生の早田圭佑君が栗原町長に返還し式を閉じました。

#### ④鹿本町閉町式



昭和30年4月1日（金）に新町鹿本町は誕生しました。時代は流れ、平成17年1月14日（金）、49年9ヶ月14日の歳月を経た鹿本町はなくなることになりました。

そのような状況下の12月19日（日）10時から鹿本町民体育館で、忘れがたき故郷鹿本町への感謝を込めて「鹿本町閉町式」行われました。

また、この日は未来の活力ある地域への生まれ変わりを願って、式に先立ち8時から「未来へつなごうタスキリレー」も行われました。

タスキリレーは、国道325号境に下高橋をスタートとする北隊と小柳をスタートとする南隊がそれぞれにタスキと鹿本町旗をつなぎ、鹿本町一円を走り抜けるものです。

北隊と南隊が鹿本町役場で合流し、最終目的地である鹿本町民体育館に入り込んでくるのを合図に、鹿本町閉町式の開会となり、タスキ隊が運んできた町旗を会場に掲げました。会場には、鹿本町の歴史を語る古い写真が展示され、皆感慨にふける中、これまで鹿本町の発展に寄

与してきた人々へ表彰状や感謝状が贈られました。

また、幼慈園・稲光園・富慈園・かもと乳児保育園そして鹿本幼稚園児たちの鹿本町の思い出をつづった歌を披露したほか、来民小学校隈部莉歩さん・稲田小学校中嶋友香さん・中富小学校富田早紀さん（全員6年生）と鹿本中学校工藤彩友美さんが、鹿本町の最後に思うことをテーマに、大衆の前で大人顔負けの堂々たる態度でしっかりと鹿本町への思い出、新市への想いや願いを語ってくれました。

最後に、会場に掲げられていた鹿本町旗を思い出作文を読んだ4人が取り外し、中嶋憲正鹿本町長と星子元亮鹿本町議会議長に返還し、故郷鹿本町にありがとうと別れを惜しみながら式を終えました。

### ⑤鹿央町閉町式



合併に伴う閉町を記念して11月28日（日）午前9時30分から町公民館において鹿央町閉町記念式典が町内外からおおよそ350人の参加者のなかで開催されました。式典に先立ち鹿央町の歩みと題して、昔懐かしい鹿央町として合併した頃の写真や農作業風景等の写真を編集したスライドが上映された後、式典が始まりました。

杉焼義文鹿央町長は式辞の中で、「鹿央村・鹿央町としての計49年間の「鹿央」の幕を下ろすことには、いいようのない寂しさがこみ上げてきますが、この町を閉じる式を町民の皆様と、ここに共有し、新市への発展をこめた未来への一歩となることを強く期待します。」と述べられました。そして前町長の竹原清次さんには感謝状が贈られました。

また、町内3小学校から代表者3人（千田小6年西川奈見さん、米野岳小6年栗原雅佳さん、山内小5年江藤悠さん）からそれぞれ閉町に際してのメッセージの発表と、かおう保育園からは年中・年長組の子どもたち75人によるかおう保育園歌等の合唱がありました。

最後に参加者による鹿央町歌の合唱のなか町旗が降納され、中学生6名（代表 柳原健史さん）から杉焼町長へと町旗の返還が行われ閉町しました。